

わが家は『もしものとき』のために真剣です

わが家（小野塚家）の防災計画

私たちは、ある日突然、災害が発生したとき、「家族一人ひとりが何をすべきなのか」を真剣に考えています。特に出勤や学校等、家族全員が外出しているときに災害に遭ったとき「一人ひとりがどのような行動をとればよいのか、また何をすべきなのか」という点を重点的に話し合っています。

して町指定避難所まで安全に連れに行く。

③定期的に非常持出袋の中身を確認し、いつでも誰でも持ち出せるようにしておく。

④避難する際、ガスの元栓や電気等を確認する。



おのづか まなぶ
小野塚 学さん
の役割（父）

①普段から、自助・共助・公助の考え方を家族に分かりやすく説明する。

②災害が発生したときは自動車が使えなくなるのが想定できるため、勤務先から自宅までの徒歩での帰宅経路を確認し、それを家族に伝えておく。

③自宅に家族が不在の場合は、町指定避難所へ行き家族の安否を確認する。



おのづか きょうこ
小野塚 郷子さん
の役割（母）

①いかなる場合でも子どもたちの安否を確認する。

②子どもたちを含め災害弱者と呼ばれている人達を地域の人たちと協力



おのづか たかひろ
小野塚 貴裕さん
の役割（子・中学生）

①中学校での避難訓練を真剣に行う。

②自分勝手な行動はしない。

③非常持出袋を持って避難する。

④町の広報無線等からの情報を大人に伝える。



おのづか あやみ
小野塚 彩実さん
の役割（子・小学生）

①小学校での避難訓練を真剣に行う。

②近くにいる大人の言うことを聞き、自分勝手な行動はしない。

③安全に避難する。

以上が災害時における私たち家族の役割分担です。

しかし、災害時は家族のことだけを考えていれば良いわけではありません。

また、避難所では集団生活となるため、普段から地域の人や学校の友達とのコミュニケーションは大切だと思っています。

日常生活のなかで私たちは子どもたちに、地域の人たちに顔と名前を覚えてもらうため、登校や下校のときは恥ずかしがらずにあいさつをすることを教えています。

皆さんも、家族全員で話し合ってみてはいかがでしょうか。



▲ わが家の防災計画を紹介していただきました小野塚家の皆さん
(左から学さん、郷子さん、彩実さん、貴裕さん)

非常用品として準備するもの

◎防災用品は、定期的に保存状態や使用期限を点検・交換しましょう

非常持出品

○避難生活に必要なもの

リュックサック・貴重品・飲料水・食料品・衣類・履物・携帯ラジオ・救急医療品・懐中電灯・乾電池・マッチ・筆記用具など

防災準備品

○災害後の火災や家屋転倒などに備えて

消火器・バケツ（金物）・スコップ・ボールなど

非常備蓄品

○災害後の停電や断水などに備えて

懐中電灯・ろうそく・簡易ガスコンロ・固形燃料・飲料水・非常食など

※飲料水・非常食は1人3日分程度が目安

